



7月の保健目標

**夏を健康に
過ごそう**

令和7年7月1日(火)

新宿区立四谷小学校

梅雨空が続き、気温は真夏ほどではないものの、湿度が高く蒸し暑さを感じる日が増えてきました。

そんな中、4月以降、溶連菌感染症が少しずつ続いています。4月には11名、5月は13名、6月には14名の報告があり、大きな流行ではありませんが、だらだらとした流行が続いている状態です。

他の感染症の流行は見られていませんが、溶連菌感染症の特徴である喉の痛みや発熱がみられる場合は注意してください。

まもなく夏休み。お子さんが元気に楽しく過ごせるよう、体調管理にご留意ください。夏休み明けに、また元気な笑顔に会えることを楽しみにしております。



「定期健康診断の記録」をお渡しします

4月から続いていた健康診断が全て終了しましたので、「定期健康診断の記録」をお渡しします。プリントは各ご家庭で保管していただき、お子さんの健康状態の確認にご活用ください。

◆ご確認いただく際のお願い◆

・この記録は、学校で実施した検診の結果のみを記載しています。

病院を受診された際に、学校と異なる結果が出ることもありますが、医療機関での結果を優先してください。ご提出いただいた受診結果連絡票は、学校で確認しておりますのでご安心ください。

・心電図検査は1年生のみ行っています。

・4年生、6年生では聴力検査を実施していません。

・欠席などにより校医の診察を受けた場合、記録に反映されていないことがありますが、学校で確認済みですのでご安心ください。

ご不明な点がありましたら、お気軽にご連絡ください。



水筒の持ち歩き方にご注意ください

気温が高くなるこの季節、水筒を持ち歩くことが多くなってきました。こまめな水分補給はとても大切ですが、持ち方によっては思わぬけがにつながる可能性があります。

今回は「こども安全メール From 消費者庁 (vol.635)」で取り上げられていた事例を紹介するとともに、水筒の安全な持ち方についてお知らせします。



【事故の例】

- ・通学中に友人と追いかけて遊んでいたところ転倒し、斜め掛けしていた水筒が腹部の右側に当たった。痛みと嘔吐があり救急搬送され、小腸破裂、汎発性腹膜炎のため緊急手術の上、集中治療室に入院した。(10歳)
- ・水筒を斜め掛けにして歩いていたところ坂道で転倒し、地面と水筒に挟まれる形で腹部を強打した。脾臓損傷のため集中治療室に入院し、保存加療で10日後に退院した。(9歳)
- ・登校中、走っていたところ硬い土の場所ではまずいて転倒した。その際、首から提げていた水筒が、地面とお腹の間に挟まり、腹部を強打した。内臓損傷により、脾臓 50% 程度及び脾臓を摘出した。(7歳)

【事故を防ぐために】

- ・水筒はなるべくランドセル等に入れて登校させて下さい。
- ・水筒を首や肩にかけているときも、走らないようにお声掛け下さい。
- ・遊ぶときは、水筒を置いて遊ぶようにお声掛け下さい。



保健室でも登下校中のけがを時々見かけます。登下校中は、遊んでいる時と違い荷物を背負ったり持ったりしているため、バランスが取りにくかったり転んだ時に手を出せなかったりするケースがあるように思います。「学校に遅れそうで走っていた」「前を歩く友達に追いつきたかった」など、心の焦りが関係している場合もあります。

お子さんの安全のために、ぜひご家庭でも話題にしてみてください。